



大街道で救援物資を配布

8月4、5日に東京と神奈川の日本共産党後援会の21人が大街道周辺で住民の方々、約150人に米や野菜、日用品などの救援物資を配布バザーを行いました。

大街道東に住む方は「以前にも共産党から支援物資をもらい大変感謝している」と感謝を述べ、「この地域は行政から十分な説明もなく建設制限が解除された。納得のいく説明がほしい」と切実な思いも語りました。

大街道周辺は津波で1階部分が破壊され、2階に住む方々が多くいる地域で、行政側が現状を十分に把握しておらず、救援の手が届いていません。

参加した青年は「この状況を地元に戻って伝え、救援の手を広めたい」と語りました。



称法寺 墓地清掃進む



8月4、5日、外で作業するには厳しい気温の中、長袖長ズボン、長靴姿で愛媛と東京の青年ボランティアと東京、神奈川の日本共産党後援会の26人が称法寺の墓地清掃を行いました。

参加した愛媛の青年は「最初はボランティアで

墓掃除が被災地にとってどんな意味があるのかわからなかったが、檀家の方が訪れて何度も感謝され、意義がよくわかった」と感想を寄せました。

多くの瓦礫の撤去が終わり、泥を土囊につめる作業に移りました。